

岩手県中央家畜保健衛生所 試験調査レポート

平成 23 年度 分野：伝染病診断・ウイルス 家畜：牛 担当：福成、庭

県内死亡牛の牛ウイルス性下痢ウイルス感染状況

【 目的 】

県内における牛ウイルス性下痢ウイルス(BVDV)の感染実態を明らかにする目的で、県内で死亡した牛に着目し、感染状況を調査しました。

【 成績の概要 】

- **材料及び方法**：平成 23 年 3 月から 12 月までの間に県内で死亡した 24 か月齢以上の牛 3,100 頭を検索しました。脳材料から遺伝子検査及びウイルス分離を実施するとともに、死亡牛届出から BVD 検出牛の品種、年齢、用途、生産地の傾向を分析しました。
- **結果及びまとめ**：検索した死亡牛の 0.52% (16 頭) から BVDV 遺伝子及びウイルスが検出・分離されました。農場有病率は 1.23% (16 戸) でした。年齢は 2 歳～7 歳齢、そのうち 13 頭 (81.3%) は 3 歳以下でした。用途別では肥育牛 (6 頭) が最も多く検出されましたが、そのうち 4 頭は酪農場で生まれた交雑種であり、酪農現場での感染率が高いことが判明しました。検出された牛の約 7 割が導入であり、自分の農場ではなく、すでに感染した牛を導入していることが多いことも分かりました。

死亡牛を活用した BVDV 検査は、効率的に県内広域の監視が可能であり、検査結果を還元する仕組みを構築することにより、農場の清浄化対策を行うことで、BVDV の清浄化に寄与できるものと思われま

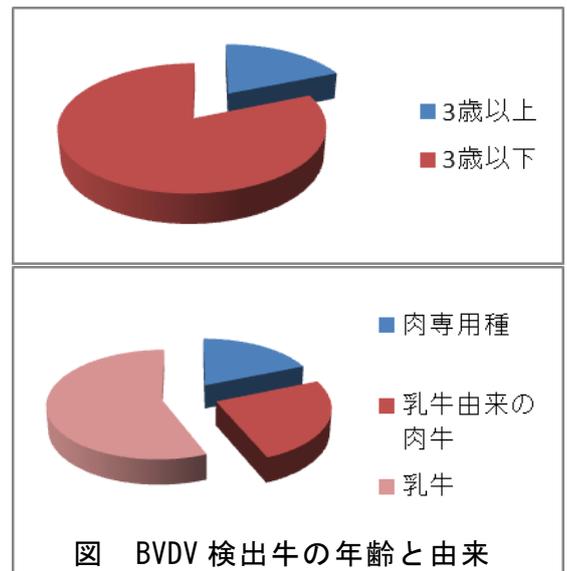


表 遺伝子検査及びウイルス分離成績

用途	検査戸数	検査頭数	遺伝子 検出頭数	ウイルス 分離頭数	農場別 検出率 (%)	頭数別 検出率 (%)
乳用	806	2,390	9	9	1.1	0.37
繁殖	415	543	1	1	0.24	0.18
肥育	81	167	6	6	7.4	3.59
合計	1,302	3,100	16	16	1.23	0.52

【 成績の活用 】

BVDV 防疫対策、ワクチン接種の啓発に活用。